

会 議 録

会議の名称	令和元年度第1回 病院運営審議会		
開催日時	令和元年(2019年) 7月3日(木) 13時30分 ~ 15時05分		
開催場所	市立豊中病院 講堂 (管理棟5階)	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	市立豊中病院 総務企画課	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	天野 陽子、上西 晟子、上山 真紀、澤村 昭彦、高鳥毛 敏雄、 深谷 和代、松本 孝治、真鍋 哲也、渡邊 太郎	
	事務局	病院事業管理者 本荘 泰司、総長 眞下 節、病院長 堂野 恵三、 副院長 巽 千賀夫、副院長 稲田 正己、 副院長兼看護部長 藤田 幸恵、中央診療局長 岩橋 博見、 薬剤部長 村田 充弘、事務局長 小杉 洋樹、看護部次長 木本 正美、 事務局次長兼総務企画課長 加嶋 隆、放射線部長 砂場 均、 臨床検査部長 山内 一浩、リハビリテーション部長 大川 知之、 栄養管理部長 中井 智明、地域医療室長 甲斐 智典、 がん相談支援センター長 鍋島 智、医事課長 中村 卓、 医療情報室主幹 櫻田 靖之、総務企画課主幹 城戸 篤、 総務企画課主幹 坂口 真由美、施設用度課主幹 山口 光徳	
	その他		
議題	(1) 平成30年度病院業務状況の報告について (2) 病院運営計画「実施計画」の取組実績の報告について (3) その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

病院運営審議会（審議等の概要）

●委員の出席状況と審議会成立の報告

全委員11人中9人出席、本審議会成立を報告

●傍聴希望申込みの許可

傍聴希望者2名の傍聴を許可

●議案審議

- 1) 平成30年度病院業務状況の報告について
- 2) 病院運営計画「実施計画」の取組実績の報告について
- 3) その他

●審議結果

1. 平成30年度病院業務状況の報告について、事務局から資料に基づき報告

《質疑応答・意見等》

1. 病院事業費用の給与費が増加しているのは、職員の労働時間が長くなっていることが要因と思われる。労務管理はどのように行っているのか。

医師以外は各部門長にヒアリングし現状の課題抽出に努め取り組んでいる。医師については、働き方についての院内検討会議を立ち上げ対応していくこととしている。

2. 病院事業費用の材料費が増加しているが、適正な価格で購入するためにどのような取組みを行っているのか。

薬品については、自治体病院共済会の平均値引率の-1%を目標に価格交渉を行い、-1.4%の値引率となった。医療材料については、他病院を参考としたベンチマークを基にした価格交渉を行っている。

3. 救急患者数が増えているが、救急車で搬送され、入院した患者の数はわかるか。また、救急要請に対してすべて当院で受け入れられているのか。

受診手段別の入院患者数は統計をとっていない。受診手段別の数値については、次回会議までに資料提供できるよう準備していきたい。要請件数が増加しているため、受け入れられないケースもある。

4. 救急医療の利用のあり方について、市民への啓発は行っているのか。

豊中市保健所と協同して啓発している。

5. 病床利用状況で特別室A・Bの利用率が50%台となっている。利用率が低いのが公立病院として必要なのか。

病室については様々なニーズがあるため、現状利用率は低いが必要と考えている。特別室の利用方法については脳卒中集中治療室へ転換する等適宜見直しを図っている。

6. ICU, HCUの利用率が低いのはなぜか。

重症患者の入院数の減少が考えられる。また、ダビンチ手術後のICU, HCUの要件変更の影響もあると考えられる。集中治療委員会で利用率向上について検討していきたい。

7. インシデント発生において医師から報告数が少ないことについて、改善への取組みは行っているのか。

医局会や院内会議での周知、初期研修医に教育の一環として一定数報告させる取組み等行っている。

8. 検査件数が昨年度と比べ減少しているのはなぜか。

1オーダーの同時検査項目数を見直したことにより、延件数が減少した。

2. 病院運営計画「実施計画」の取組実績の報告について事務局から資料に基づき説明

《質疑応答・意見等》

9. 患者満足度調査の総合評価の数値が入院・外来とも減少しているが、原因を分析しているのか。

個々の項目については概ね「満足」「やや満足」との回答であった。総合評価が前年より下回った要因はわからないが、今後も接遇マナーの向上や待ち時間改善を実施し、満足度の向上につなげていきたい。

10. 全国的に看護師が不足している。高齢社会において、65歳を超えた看護師の雇用についてどのように考えるか。

働いてもらうことは不可能ではないが、勤務条件や体制、現状働いている常勤職員の意識改革等が必要になる。看護職種では65歳を超えた方の雇用はないが事務職種では臨

時職員として雇用している実績がある。看護職種においても希望があれば対応していきたい。

1 1. 患者の立場に立った医療を提供するためには、働いている職員の意識も必要である。職員のモチベーション向上を確認できるようなしくみは計画しているのか。

職員向けの意識調査を数年前まで行っていた。近々調査することを考えている。働きにくさの解消については、ハラスメント対策等に組織としてしっかり対応していきたい。

1 2. 病床利用率が12月に落ちているのはなぜか。

重症度、医療・看護必要度の数値を上げるため、昨年の秋頃平均在院日数を短縮し、退院を促進したためである。

1 3. 脳卒中集中治療室（SCU）の稼働率を教えてください。

今年の6月に設置し、7月から本格稼働している。現在の利用状況はほぼ満床である。

1 4. 実施計画の数値目標に地域医療構想で公立病院が求められている内容が反映していないと思われる。目標値の設定の見直しは考えていないのか。

本実施計画は5年間を計画期間としており、3年目に内容及び数値目標の見直しを予定している。

1 5. 「がん診療に関する情報発信、啓発、教育」の進捗区分がC（取組みの一部を実施中）となっているのはなぜか。また、改善の見直しはあるのか。

第3期がん対策推進基本計の取組み施策のがん教育、普及啓発について、院内スタッフ向け勉強会の開催が当初計画していたとおりに進捗しなかったため、Cとなっている。市民公開講座等のがんに関する啓発は引続き実施していく予定である。

3. その他

特になし

事務局から次回病院運営審議会について連絡

<以上、終了>